

こんにちは。  
町長です。



## 町の観光事業（国民宿舎両神荘など）について

新型コロナウイルス感染症は、町内の経済活動に暗い影を落としています。

町としても国、県と連携して町内経済再生に向けての取り組みを図って参ります。

さて、町が行っている国民宿舎両神荘などの観光関連事業も大きな影響を受けています。今後は感染症終息後（アフターコロナ）に向けて様々な対策を講じていかねばならないと存じます。

ところで、今回の感染症で一番ダメージを受けている町の観光事業は国民宿舎両神荘です。埼玉県内市町村で経営している国民宿舎は、今は両神荘だけとなっています。経営状況としては、令和元年度決算においては約1200万円弱の純損失を計上しています。この損失は前年度の台風第19号や暖冬による氷柱事業の中止なども影響していると存じます。

今後施設の老朽化の進展や、観光ニーズの多様化が進む中で、経営環境は一層厳しくなることが予想され、今回の感染症が更に追い打ちをかける形となっています。

国民宿舎両神荘の事業は、町内の雇用効果や消費効果など地域経済にある程度の効果を上げており、事業継続はしていかなければならないと考えております。しかし、今までと同じような形で継続して行くことは、これからの時代困難が予測されるところです。

その他、町直営施設である道の駅両神温泉薬師の湯、地域資源活用センター、両神農産物直売所も、その経営状況は厳しくなっています。また、国民宿舎両神荘の隣接地に本年7月にオープンしたクライミングパーク神悦館もその経営が始まったばかりであり、コロナ禍の中で苦戦を強いられています。

このような状況の中で町では、株式会社地域商社の立ち上げについて調査を進めています。基本的な考え方としては、国民宿舎両神荘や道の駅両神温泉薬師の湯などの機能を再編強化して、地域商社事業の中核に据え、併せて地域内資源を活用した六次産業化を推進したり、新たな観光需要の開拓などを民間主導で展開して参りたいと存じます。

地域商社の設立に当たっては、町出資ではじめ民間出資を拡大して町の出資比率を下げて、民間主導の運営形態に移行する考えです。

しかし、この地域商社事業の成否のカギを握るのは、何と言っても経営者を見つけることであり、全国募集で探すこととしたいと思います。

この地域商社立ち上げには幾多の困難も予想されますが、実現して参りたいと存じます。立ち止まっているだけでは、衰退あるのみだと思います。町民の皆様にはご理解ご協力を賜りたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎